

一人一台タブレット端末を学校現場に導入したことによる、本区における成果と課題はどのようなものか。(富士見小学校 校長 小牧来太)

	成果(進んでいると思われる点)	今後の課題
ICT環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・Teams活用の浸透</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・Teams上の児童の表示</li></ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"><li>・各分掌での活用</li><li>・ICT活用例を見合い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習の状況の共有</li></ul>
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"><li>・タイピングやクラウド上にあげること</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・使用アプリの選択</li><li>・情報収集についての指導</li></ul>

# 神田一橋中学校 研究指定校(1年め/3年計画)

## 「ちよだスマートスクールを活用した 学び方・教え方・働き方改革の推進」

### 成果

- |       |         |        |          |         |
|-------|---------|--------|----------|---------|
| 学び方 … | ①情報収集   | ②意見共有  | ③資料作成・発表 | ④共同編集   |
| 教え方 … | ①デジタル教材 | ②意見可視化 | ③課題配信・回収 | ④AIドリル  |
| 働き方 … | ①共有・編集  | ②保存・管理 | ③配信・集計   | ④デジタル採点 |



活用推進 ⇒ 効果大・共有 ⇒ 汎用性の向上

Microsoft365  
(Teams, One Note等)

### 見えてきたこと

学び方  
教え方

**易** 協働的な学び **難** 個別最適な学び  
⇒ 「一斉授業」からの転換・意識改革、指導方法の再構築

働き方

**易** デジタル化 **難** データ削除、校務のスリム化  
⇒ 「学校」にとらわれない働き方、ルールの確立

一人一台タブレット端末を学校現場に導入したことによる、本区における成果と課題はどのようなものか。(九段中等教育学校 統括校長 野村公郎)

	成果(進んでいると思われる点)	今後の課題
ICT環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端末がSurfaceProであるため、マルチタスクで行う学習活動等をスムーズに行うことができる。</li> <li>・LTE端末のため、校内のネットワーク障害や家庭でのネットワーク環境に影響なく学習を行うことができる、紛失等の心配がある時にはMDMなども活用し速やかに対応できる。</li> <li>・10Gの光ファイバー回線の導入により、ネットワークを活用した学校での教育活動が学校全体が同時にアクセスしても不具合なく活用できる。</li> <li>・Microsoft365 E5により、DefenderATP等による校務の効率化やコストダウンが実現できている。</li> <li>・保守および年次更新に関して、導入業者に一部委託できており、働き方改革の一助となっている。</li> <li>・Adobe Creative CloudのSSO連携がなされているため、アカウント管理等の負荷が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内のアクセスポイントやL3スイッチ等のインフラ環境が既存のものを使用しているため古いために、ボトルネックや不具合の原因になっているため、次期ネットワークやサーバのリプレイスで時代に対応したシステム・ネットワークを構築する必要がある。</li> <li>・常駐ソフトウェアによるメモリやCPUの使用率が高くなり、ソフトウェアの動作保証のメモリ等のスペックを満たすことができず、操作がスムーズでない場面や、アップデートや近年のソフトウェアのメモリ等を多く使用する環境への対応もあり、メモリやCPUなどのスペックをアップすることが不可欠である。</li> <li>・不具合や破損等のメンテナンスで代替機が大幅に不足しており、授業に支障がでているため配備する必要がある。</li> <li>・講師用や欠席者対応の配信用等の端末の配備がなく、配備する必要がある。</li> <li>・教室に設置されているプロジェクタが経年劣化により故障し、可動式モニタを活用しているが、数も不足しており、ICT機器を活用したくてもできない状況にあるため、更新および配備する必要がある。</li> <li>・GIGAスクール構想が目指す学びの未来の相似形として次世代の校務DXを捉え、紙ベースの校務を単にデジタルに置き換える(Digitization)から、クラウド環境を活用した業務フロー自体の見直しや外部連携の促進(Digitalization)、データ連携による新たな学習指導・学校経営の高度化(Digital transformation)へ移行していく必要がある。</li> </ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と同じ端末が導入されており、マシン操作やトラブルなどの対応の負荷が少なく、授業の展開がスムーズに行うことができ、教員の異動にかかわらず継続的に学校全体として取り組みやすい。</li> <li>・Microsoft365 E5の導入により、Power BIなどによるデータ活用の授業の展開等ができたり、Power Automateによる業務の効率化も行うことができる。</li> <li>・Microsoft Teamsによる課題の配信や授業の投稿により、学習ログを取ることが容易であり、Steam等個に応じた指導もしやすい。</li> <li>・Microsoft TeamsとAdobe Acrobatの連動およびSIM端末の配備により、受験指導が記述添削などの公立の2次対策においても効果的に行うことができ、進路実現につながっている。</li> <li>・Adobe Creative Cloudの全生徒・教職員への導入により、授業等の動画編集をAdobe Premier Proで行った理、スピーチの編集をAdobe Auditionで編集したり、クリエイティブな活動が行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業等で、ビデオ会議をしながら、他のアプリケーションソフトウェアを使った学習を行うなどの活動では、ハードウェアのスペックが不足し、システムダウンなどの学習が止まる場面もあるため、メモリやCPUなどのスペックを高いものに変更することが不可欠である。</li> <li>・教室に設置されているプロジェクタの故障や可動式モニタの不足、メンテナンスによる生徒貸出機の不足により、ICT機器を活用したくてもできない状況にあるため、使わないという選択をせざるを得ない状況が発生しているため、配備するなどの対応が必要である。</li> </ul>
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期課程・後期課程とも同じ端末・環境であるため、授業などの学習はもちろんのこと、6か年の一貫した教育活動が行うことができる。</li> <li>・Adobe Creative Cloudの全生徒への導入により、美術科の授業だけでなく他の教科の授業のアウトプットや行事等に生徒が主体的に選択して、クリエイティブな活動が行なわれている。</li> <li>・Microsoft365 E5を活用し、アプリを主体的に選択し、授業の内外問わず、協働学習および探究ができている</li> <li>・LTE端末の活用により、学校での学習と家庭学習がシームレスに行うことができる。</li> <li>・入力デバイスとしてキーボードとペンがあり、生徒が個や場面に応じて主体的に選択し、ノートテイキングや作品制作等を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常駐ソフトウェアやアップデートなどにより、ハードウェアのスペックが不足し、学習に場面もあるため、メモリやCPUなどのスペックを高いものに変更することが不可欠である。</li> <li>・Adobe Premier ProやAdobe Photoshop, Minecraftなどを活用する学習では、ハードウェアのスペックが不足し、学習ができなくなる場面もあるため、メモリやCPUなどのスペックを高いものに変更することが不可欠である。</li> <li>・登下校での持ち帰りにおいて、ケースには入れてはいるものの、教科書等による圧迫で、画面が割れる等の事象が多く発生しており、次期リプレイスでは画面保護などの対策をする必要がある。</li> </ul>

一人一台タブレット端末を学校現場に導入したことによる、本区における成果と課題はどのようなものか。(お茶の水小学校・幼稚園児童保護会長・原 直樹)

	成果(進んでいると思われる点)	今後の課題
ICT環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・区から支給されているタブレットの他、家庭でもPCやタブレットに触れる機会が増えている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学業以外での使用のし過ぎに注意が必要</li><li>・視力や姿勢の悪化への配慮</li></ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"><li>・教室にPCに接続出来るプロジェクターが設置されているので生徒達との画面共有が迅速かつ快適に行える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校や教室ごとでの導入できている設備に差が出ないようにする</li></ul>
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"><li>・1人1台タブレットがあるので授業で使用が可能</li><li>・先生からレクチャーを受けながら使用できる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・充電の忘れに注意が必要</li></ul>

# 一人一台タブレット端末を学校現場に導入したことによる、本区における成果と課題はどのようなものか。(麴町中学校PTA会長・高田理尋)

	成果(進んでいると思われる点)	今後の課題
ICT環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが作成したものなどをリアルタイムで共有し共学することができる。</li> <li>・インストールされているソフト数は多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書は殆ど使ったことがないとのこと。なぜか?</li> <li>・タブレットにインストールされているソフトを教育課程で有効活用できているのか?</li> </ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員によるが、生徒がどの辺りで躓いているのかを理解して適切なタイミングでフォロー</li> <li>・生徒とのonlineコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による活用度合いの格差</li> <li>・ICT活用により生じた時間を、本来教員でしかできないことに使えていない(単に楽になっただけ)ような場面も感じられる。</li> <li>・StuDX Styleや未来の教室、STEAMライブラリーなど先進的活用事例を使ったFDなどを行っているのか?</li> </ul>
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な学び方(タブレット、教科書等)の選択肢が増えた。</li> <li>・デジタルデバイス活用能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日にアクセスできる範囲が決まっており、できる生徒には時間を持って余すこともあり、個別最適な学びには至っていない。</li> <li>・授業中にゲームをしている生徒もいる。</li> <li>・渋谷区が取り組んでいる「教育ダッシュボード」のような仕組みで子どもたちの心の可視化と対応はできないのか?</li> <li>・目標8「気持ちや考えを可視化しよう」で、教師は子どもたちひとりひとりの得意なことや興味持ちそうなことを発見してあげられないのか?</li> <li>・目標17「学校と保護者間の連絡のデジタル化をしよう」はあまり活用されていない。</li> <li>・授業の振り返りで各自気付いたことを入力することはすべき。</li> </ul>

一人一台タブレット端末を学校現場に導入したことによる、本区における成果と課題はどのようなものか。(KUDANP.A.会長・岡野)

	成果(進んでいると思われる点)	今後の課題
ICT環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・PCスキルアップ</li><li>・考える力養成、総合教育</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・プリントアウト対応</li><li>・コンテンツ充実</li></ul>
教員	<ul style="list-style-type: none"><li>・欠席者へのオンライン授業</li><li>・配布物ペーパーレス</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ICT対応の均一化</li><li>・就業時間の短縮</li><li>・リモートワーク</li></ul>
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"><li>・映像(動画)での課題が可能</li><li>・部活先生、部員とのチャット</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ファミリー共有、画面共有</li><li>・オンライン授業アーカイブ</li></ul>